

☾ 2009年7月22日の皆既日食

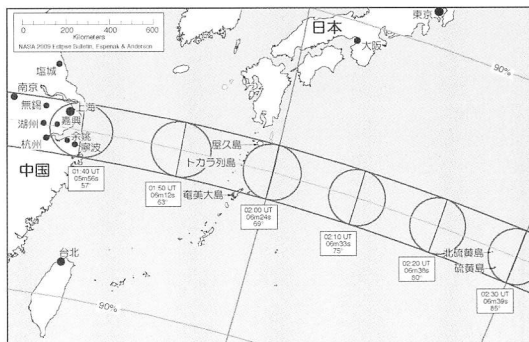
2009年7月22日、インドから中国、日本の南西諸島にかけて皆既日食が起こります。日本では鹿児島県の屋久島、トカラ列島、奄美大島北部などで見ることができます。

皆既日食は月が太陽を完全に隠してしまう現象で、めったに見ることができません。日本の陸地で皆既日食が観測されるのは、1963年7月21日に北海道で観測されて以来、実に46年ぶりのことであり、今回を逃すと、次は2035年9月2日になってしまいます。

今回の日食で一番観測条件がいい場所は鹿児島県のトカラ列島になりますが、たいへん小さな島々のため、受け入れられる人数はせいぜい1000人程度です。全世界から天文ファンが殺到することを考えれば、この島で観測するのはかなり困難です。そのため船に乗って海上より観測する日食クルーズに参加したり、中国で観測する方法などが考えられます。

この日食は、月が地球に近い時に起こる日食のため、皆既の継続時間が長いのが特徴です。食の中心部分では最大で6分以上の皆既継続時間があります。大阪を含め日本全国では、部分日食が観察できます。大阪では最大食分が0.821と、太陽の直径の8割以上を月が隠してしまいます。

(江越航：科学館学芸員)



2009年7月22日の皆既日食が見える場所
(NASA Eclipseホームページより)

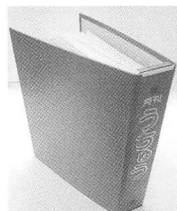
月刊「うちゅう」バックナンバー・バインダーを販売しています

ご希望の方は事務局へお電話ください



←月刊「うちゅう」2008年2月号は…
「繊維産業史からみた大阪」
「宇宙ってホントは何次元？」ほか
1冊200円（送料68円）

うちゅう専用バインダー
500円（1年用）→



2